

OCEAN life

オーシャンライフ 10
Oct. 2004 No.403

プレジャーボートとマリンスポーツの情報マガジン

昭和55年12月2日第3種郵便物認可
平成16年10月1日発行(毎月1回1日発行) 第34巻第10号 通巻403号

特集

ライトタックルで楽しむ ボートフィッシング

ライトローリング、キャストイング、ジギング、さまざまな釣りを手軽に楽しむための実践ストーリー&バイブル。
艦装、タックルガイドなどを詳解する。ライトタックルトーナメント参戦記など。



天草発 屋久島行き きまぐれ釣行記

ヤマハSF-38、フェアライン50、プラネット42FB

第7回 ロイヤルパインズカップ和歌山フィッシングトーナメント

今月のボート

プレジデント720コンバーチブル/ベネトウアンタレス710/ミノア29オスカー/スズキアグレッサード/ミヤマ215HA ほか

P**R****E****S****I****D****E****N****T** **720** **C****O****N****V****E****R****T****I****B****L****E**

プレジデント 720 コンバーチブル



由良 **Boat** 第15回 TAKUYA YURA **拓也**の **Graffiti**

優雅なクルージングと快適な移住空間。

そして、オーナーが求めるトローリングのしやすさ。

これらを追求したプレジデント720コンバーチブルに由良拓也が試乗する。

カスタム艇だけに、オリジナリティ溢れる装備があちらこちらに……。





72フィートだけあって やはり大きいフネだね

あれれ? プレジデント720コンバーチブルは、オーシャンライフ先月号(9月号)に掲載されていなかったか?と思う人も多いだろう。もちろんこれは目の錯角でもなければ、編集部のミスでもない。今回は「プレジデント720コンバーチブルを由良さんがチェックだ!」という新たな企画なのだ。

ピーカンに晴れ渡った空の下、桟橋にゆったりと係留されているプレジデントを見てボクは圧倒された。72フィートだけあって本当に大きい。そして最初に目があったものといったらフネに負けず劣らず存在感のある「フエンダー」だった(笑)。このサイズともなるとフエンダーもデカイ! 例えていうならボクが体音座りして丸まったくらいの大ささだ。イヤ、確実にそれ以上。

デッキに上がると、チークデッキの木目がスラーッとパウに向かつて伸びていてスッキリとした印象。このフネのすごいところは、先ほど話したフエンダー類をもすっぽり収納してしまうところだ。フエンダーが収納できなかったら、ゴロゴロして邪魔になるし、見た目にもよくないからね。この収納力は特筆に値する。そして、パウロッカーをあけてみると清水と海水の2種類の蛇口がついていた。その場でアンカーについた潮を洗い流

せるし……これはなにかと便利だね。

そうそう、忘れないうちにこのフネについて紹介しておこう。台湾のビルダー、プレジデントマリン社が生産し、日本のボートサイド社が輸入販売を行っているプレジデント720コンバーチブル。オーナーの要望を叶えてくれるカスタム艇なんだ。今回取材したフネのオーナーはトロリーリングが趣味で、フネの至る所にフィッシング機装が施されているとのこと。なんだかこのフネで「トロリーリング」っていうのがちよつと意外だね。遠方にクルージングして、豪華にパーティーして……って感じかとボクは思っていたから、そのミスマッチ(?)な部分に興味をそそられた。なにしろこのオーナーはJGFAの大会で優勝経験まであるんだって!

オーナーのこだわりと 工夫が見られる

パウデッキからフネ全体を眺めると、キャビントランクとデッキハウスが、最新型の新幹線をも連想させるシャープな形に仕上がっていた。また、フネを低く見せるチョップドルーフ。おかげで走行時には抵抗なく風が流れていくのだろう。ウォークアラウンドデッキは(フネの割合に比べると)、広いスペースとは……言い難かった。そこにクリートがひよつこり設置されている。「つまずかないように気を付けてね」と後ろをついてくる

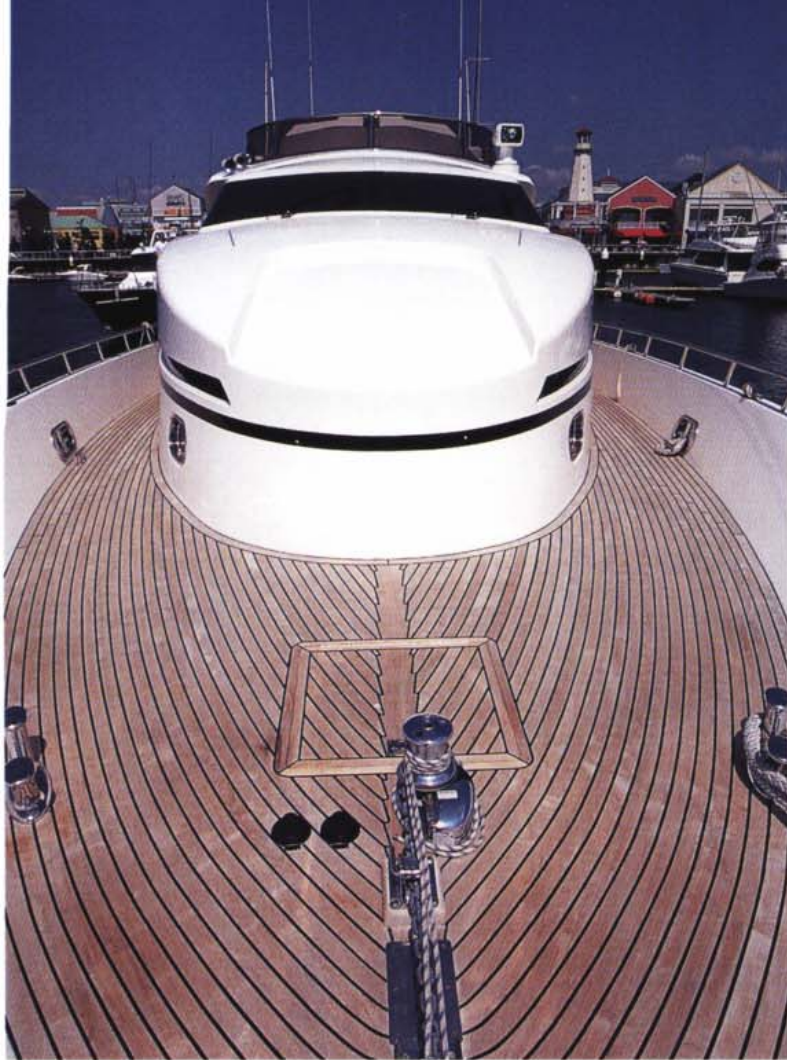
PRESIDENT
720 CONVERTIBLE
プレジデント
720コンバーチブル



オーナーはロワーステーションで操船するので航海計器は最小限。スクリーンがもう少し高いとグンと操船しやすくなるんじゃないかな。



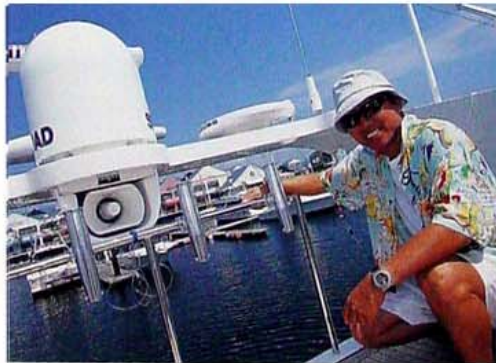
720はスタイリングを低く見せるこだわりが随所に見られる。全体的にローププロフィールなレイアウトとなっている。



独立したキャビンがまるで新型の新幹線のような。先端の一段凹んだ部分はサンベッドでもなくラウンジでもない。670はラウンジだったんじゃないかな？



スターンコックピットのcabには収納式のステップが、これは必要にして邪魔な存在のステップのうまい処理方法だね。



ロッドラック等のフィッシング機がさりげなく見られる。またスピーカーやモニターカメラ等も目立たない工夫がされている。



スターンコックピットから見上げると飛行機が!? レーダーアーチには遊び心が見られて楽しくなるね。



国内初登場のキャタピラーC30。エンジンの周りにはグラブレールの配慮もあり、室内は立って歩け、メンテナンス性も上々。



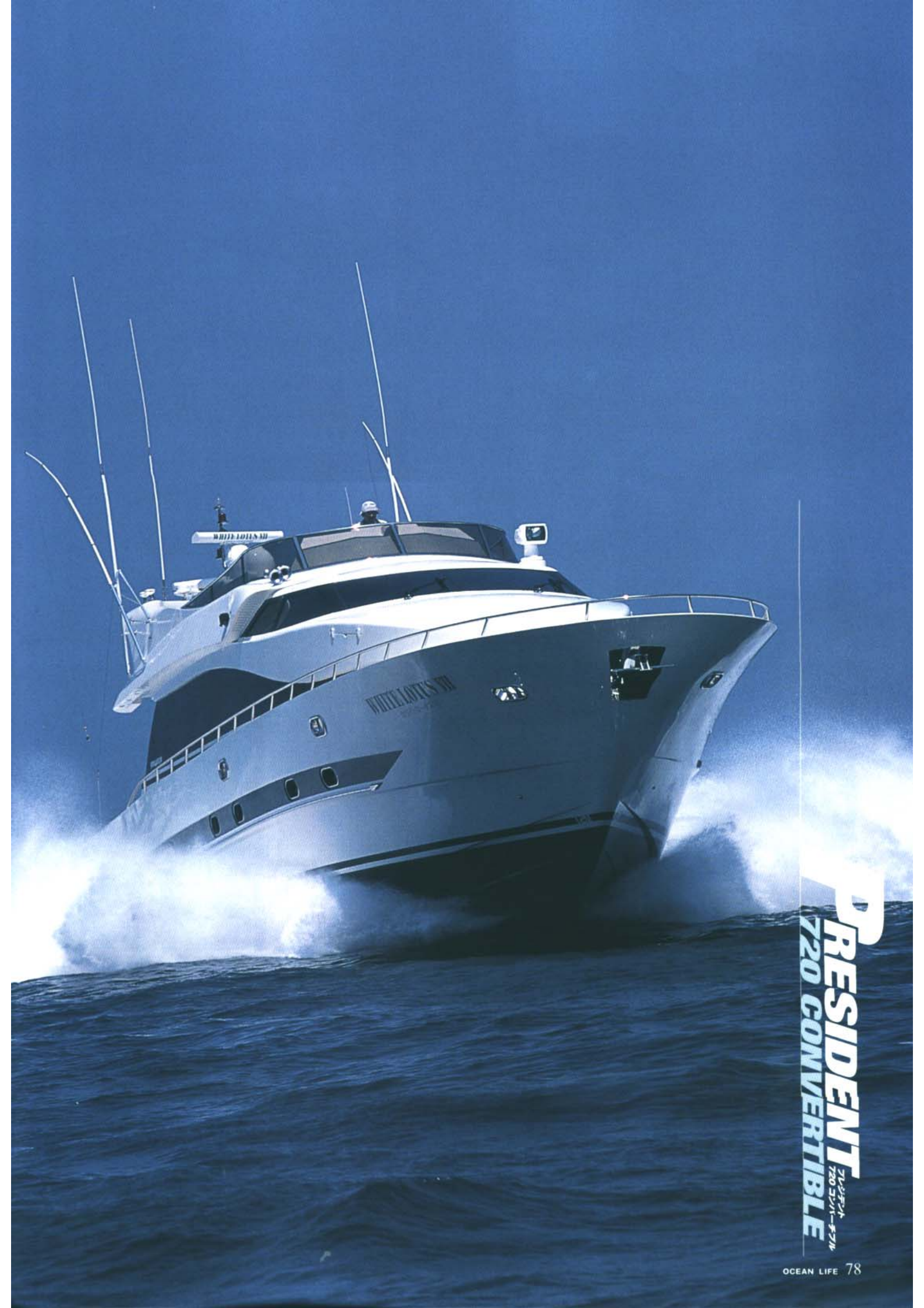
凝りに凝ったトランサムドア。ダブルリンクで開閉するが、重いのでこれは電動が油圧にアップデートしたいところだ。



スターンのクリートとロープホール。低い位置にレイアウト。外から見るとちょうどブラックストライプの中に位置する。



アウトリガーも装備されている。バット見は白いアンテナに見えるかな。フネのイメージを壊してないね。



P
PRESIDENT
720 CONVERTIBLE

720 511-4711

銀座の高級クラブ(行ったことが無いけれど……)と見紛うほどのクオリティー。右側のプラズマTVはオートポップアップで使わない時は姿を消す。



オーナーズルームにある飾り棚付きのクローゼット。隅々までオーナーの希望を取り入れて職人が手間をかけて作り込んだのが良く判る。



オーナーズルームはこのムード!このフネの見せ場はウッドワーク。統一されたデザインコンセプトの木製(マホガニー)ルーバーがうねります。



キャビン内のロワーステーションはまさにオーナーの仕事場。全ての航海計器がダブルに装備されている。

らせん階段の手すりは外に出張るのではなく内側に手の入る凝った作り。手すりの中にはイルミネーションが入りムードと安全性を確保。



クルールームもウッディーなシャレた作り。オーナーの使い方が絞り込まれているので、特別なゲストルームはない。



ウッドフロアのヘッドコンパートメントは広々としていて採光も良く、ヘッドはウォッシュレット付きと、ロングクルーズも快適だ。

カメラマンにボクは声をかけた。その瞬間、ボク自身がクリートにつまずいてしまった(笑)。この部分をどうにかならないかなあ……と思ってしまったけど、係留し易い分、歩く時に注意すればいい。まっ、それだけの話だけどね(笑)。

F Bは、ウインドスクリーンで外からチェア、テーブル、シンクなどが見えないようデザインされている。写真を見ても分かれると思うんだ、イイ感じに目隠しされているでしょ!! 唯一(つてわけでもないが)、そのウインドスクリーンから抜け出ているレーダーアーチ。そのレーダーアーチにはパラボラアンテナなどが上手くレイアウトされていた。スピーカーは、そのまま設置してあるのではなくカバーで覆っているんだよ。ていねいな造りだね。これらを下から見ると……なんと、なんと、飛行機の形に見えるんだ! 見た目の善し悪しだけではなく、遊び心も忘れていないという意味でボクは「上手くレイアウトされている」って表現したいね。

レーダーアーチの下にロッドホルダー、サイドにはアウトリガー……と、フィッシング機装が目に入った。高級感のあるクルーザーは、それらがあるおかげで雰囲気壊れてしまうのではないかと考えていた。しかし、アウトリガーはスプレッターのついているものではなく、カラーもデザインもシンプルなものを使用しており、決してフネの雰囲気壊さない。むしろフィッシング装備がこのフネの「味」とも感じとれるんだ。

次はスタンデッキ。とつても広々としていた。中央にドカンとファイティングチェア



PRESIDENT 720 CONVERTIBLE

が置いてあるし、ここにもオーナーのフィッティングへのこだわりが現れている。もちろん巨大な収納スペースはスターンにも健在。またブルワークに収納式の踏み台が設置されていて、栈橋への行き来がラクにできる。乗る人にやさしい装備だね。普段はそこに物を置いたり、ちよつと腰をかけたたりもできるんじゃないかな。

トランサムドアには、飛行機のようなスライド式が採用されていた。トビラを横にスライドさせることで少しでも空間を広くみせるとのことだ。頑丈な造りだし、とってもおしゃれ。どうせなら手動ではなく電動の方がもつとカッコよくなるんじゃないかと、ボクは思う！

エンジンルームもやはり広い。ルーム内に手すりが付いているから不注意でエンジンを触っちゃうこともない。それに海上だと波で真直ぐに歩けないし……この心使いはなかなかニクイね。また、エンジンの周りを360度歩けるんだ。これならエンジンをメンテナンスするのにいいね。このフネには1550馬力のキャタピラーC30が2基掛されている。さあどんな走りをするか楽しみだ！

操船は
素直に聞き入れてくれる感じだね

操船はキャビン、FBのどちらでもできる。だけど、今回はFBから操船させても



by YURA Takuya



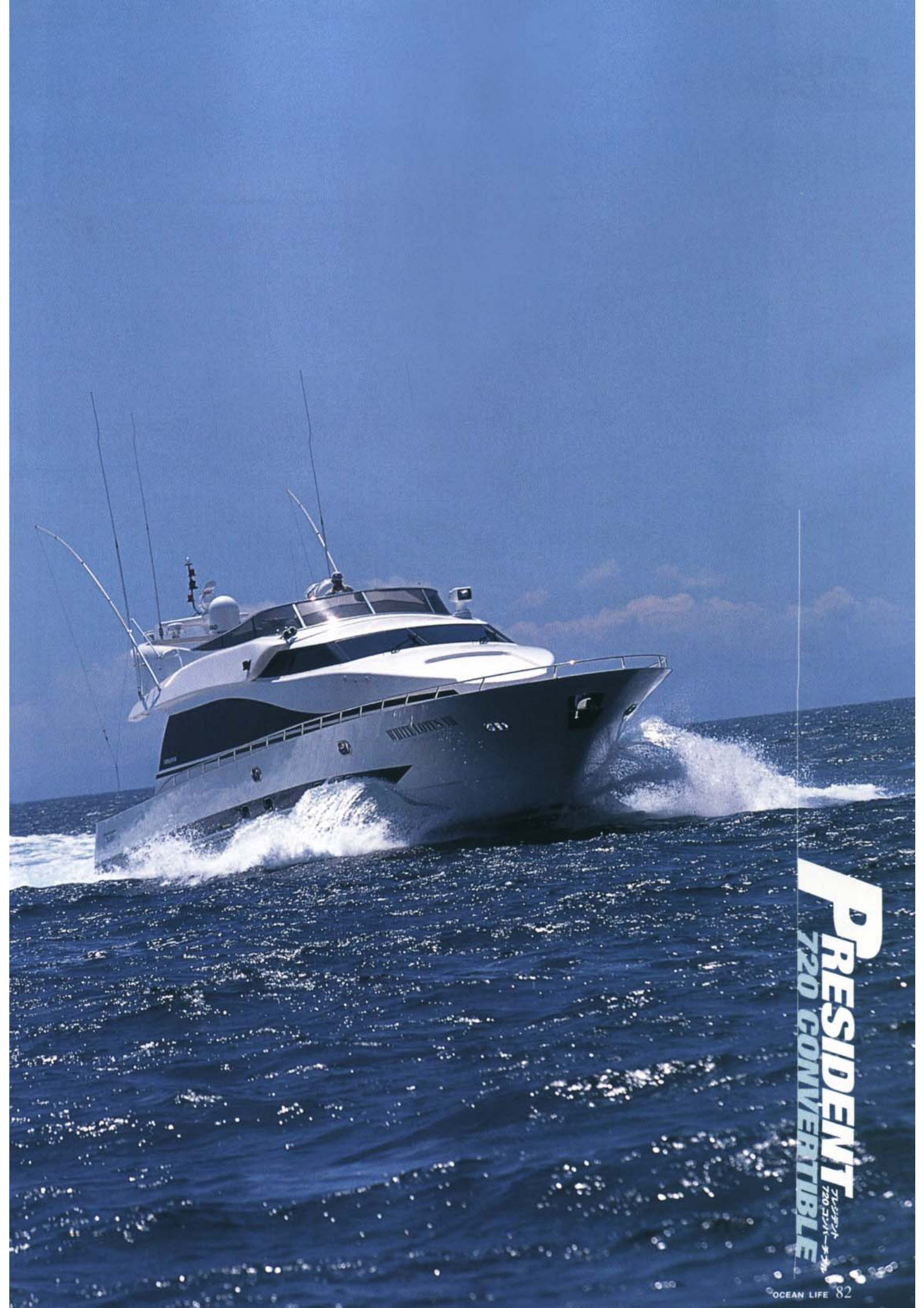
らうことにした。オーナーは、キャビン内のヘルムステーションからインターカムを使って、FBにいるボクにいろいろと指示をくれた。このようにフネが大きいと意思伝達が難しいけど、これがあれば安心だね。ついでに紹介すると、キャビン内のヘルムステーションからFBとスターンの様子がそれぞれカメラで映しだされるんだ。これは、トロリング中に役立っただけではなく、安全面にも配慮があるよね。

操船を始めると、スラスターが前にも後ろにもついているし、シートもなかなか座りやすい。ハンドルは電子制御で動いているからスムーズに動く。人間の感覚を素直に聞き入れてくれるって感じかな。

35ノット以上の高速で72フィートの巨体が、波をスパースパンと切つて進む様子は圧巻だ。安定性があるね。全幅が全長に比べて小さめに設定されているが、この辺の縦横比に秘密があるのかな？ 直進性にも安定性にも優れている、そのうえ舵の利き具合も実に素直だから「プレジデント以外は操船したくない」という人もいるだろうね。

木質をふんだんに生かしたインテリア

船内は、桟、マホガニーと、木質をふんだんに生かしたインテリア。各部屋に流れるようなルバーがあり、統一感が感じられる。そして今回ボクが気に入ったのが階段の手すり。また壁のコーナーの部分がムクの木材から削り出されているという点にこだわりの感じた。手すりにはセーブライト



P
RESIDENT
720 CONVERTIBLE

720 2014-2015



スペック/装備一覧

PRESIDENT 720 CONVERTIBLE

SPECIFICATIONS

全長	22.10m
全幅	5.01m
重量	46.6t
燃料容量	6000L
清水容量	1200L
エンジン	キャタピラーC30 (1550HP) X2
仕様	NK入級船、JG全沿海仕様
標準価格	257,000,000円
(本艇の装備価格/288,000,000円)	

本艇の主な装備品

■ 船体

FRP+ケブラー
バキューム工法
COOKゲルコート+オールグリップ塗装
オールフロアーチークデッキ
パウスラスターWESMAR V-212E (13HP)
スタースラスターWESMAR V-212E (13HP)
ウィンドラスMUIR VRC4000
エアークラフトランサムドア

■ インテリア

カスタムレイアウトデザイン
マホガニー材
艶だしキャビネット
オールウォール
ロールアップカーテン
オールフロアーカーペット
リフトアップ液晶式TV

オーディオビジュアル一式
バキューム式マリントイレ/ウォッシュレット
セントラルバキュームクリーナー
ギャレー用品一式

■ エンジン・機関室

キャタピラーC30 (1550HP) X2
エンジンビジョンディスプレイ
発電機ONAN21.5kW 110V/60HZ
発電機ONAN13.5kW 110V/60HZ
造水機SEA RECOVERY SRC
AWC1200
コンプレッサー
ポンピングシステム GROCOダブルラインシステム

■ 航海計器

レーダーFURUNO
GPSプロッターSIMRAD CP54D
GPSプロッターFURUNO GP-1850
チャートサウンダーSIMRAD CE44D
オートバイロット/ジャイロレベーター
SIMRAD AP-50
TVモニター
サテライトTVアンテナSIMRAD TV46
マリンVHF SIMRAD RS87
サテライトコンパス

■ トローリングギヤー

アウトリガー ラップ スタンダードリガー(特注)
トローリングチェアー アーリーアンドツナクラブ130
ロッドホルダー ARITEX X6
ロケットランチャー

がついていて、夜になると更にいい雰囲気
漂うんだろうね。しかも、裏側に手がかり
があつて、ちゃんと指がひつかかるんだよ。
またこのフネには10人が寝られるよう、
ベットが用意されている。釣り仲間たちは、
ここでトローリングで疲れた体を休ませて
いるのだろうね。とっても贅沢でちよびり
うらやましいな(笑)。一眠りした後は、キ
ヤビンで乾杯なんてね(笑)。



オーナーは、いつもクルーラーの効いたキャ
ビン内で操船していて、FBではめったに操
船しないとのこと。それ故になんだけど：
…この日は日射しが強かったからFBにオ
ーリングがあればいいなと思った。

リポート=由良拓也
report by YURA Takuya

写真=上田穂高
photography by UEDA Hodaka

取材協力/(株)ボートサイド
(株)シーブリーズボートサービス
P.W
(株)エルモトレーディングサービス
問い合わせ先/(株)ボートサイド
TEL 045-849-2051